

皆さんは、薬の飲み合わせ（相互作用）と言う言葉を、耳にしたことがありますでしょうか。1つの薬では問題がなくても、複数の薬を服用することで薬の作用が強くなり好ましくない影響（副作用）がでたり、または薬の作用が弱くなり、期待する効果が得られなかつたりすることがあります。これを飲み合わせが悪い（相互作用がある）と言います。

薬剤師は、皆さんに薬を安心して安全に、そして効果的に服用していただくため、薬と薬の飲み合わせを確認しています。必要と判断した場合は、医師に問い合わせや処方変更の提案をしたり、患者さんへ体調の変化が起きた時の対処方法を説明したりしています。

薬には、実は薬同士のほかにも注意しなくてはいけない相手があります。それは飲み物や食べ物・健康食品（サプリメント）、過去の病歴や治療中の病気、副作用の運転や高所作業など、検査・手術などとの相性です。例えば、

## 人それぞれで異なる薬の飲み合わせ

前立腺肥大や緑内障に避けたほうが良い薬や、腎臓の働きが低下した場合（高齢者に多い）に注意が必要な薬、検査や手術の内容によつては中止する必要がある薬があるのです。これらのチェックを薬剤師が行うには、皆さんから情報提供が必要です。

特に複数の医療機関に受診している場合は、服用中の薬を正確に伝えていただく必要があります。その方法としては、「お薬手帳」をご活用いただくといいでしょう。病院や診療所内で薬をもらった場合は、薬の説明書きを「お薬手帳」に挟んでおいてください。医師や薬剤師に伝えたいことなども「お薬手帳」に書いておくと良いです。

最後に、薬を安心して服用していただくための一番のおすすめは、皆さんの体調や治療歴や治療薬を把握してくれる「かかりつけの薬剤師」を見つけるいただくことです。皆さんが、いつでも気軽に相談のできる、相性の良い薬剤師を見つけていただくことで、薬とも上手に付き合えると思います。

くすりと健康のはなし

# 薬包紙

第102回

職能対策委員

山田 操

一般社団法人岐阜県薬剤師会

